

発作性心房細動へのアブレーションにより再発抑制

心房細動は心拍障害のうち最多であり、発作性心房細動の再発抑制には抗不整脈薬が効果的であると考えられている。抗不整脈薬が奏功しなかった患者には高周波カテーテルアブレーションが適用されるが、発作性心房細動の第一選択治療とすることの妥当性については検証が必要である。そこで本研究では、発作性心房細動の患者への第一選択治療として、高周波アブレーションが抗不整脈薬よりも優れているか否かを検討した。被験者は、抗不整脈薬の投与を受けたことのない18～75歳の症候性発作性心房細動患者127人とし、北米・欧州の16の施設において、抗不整脈薬治療群（61人）またはアブレーション治療群（66人）にランダムに割り付け、24カ月まで追跡した。その結果、30秒以上の心房性頻拍性不整脈の再発は、抗不整脈薬群の44人（72.1%）に比べてアブレーション群では36人（54.5%）と有意に抑制された（ハザード比0.56）。死亡、脳卒中は両群ともになかった。アブレーション治療群では重篤な有害事象として、心タンポナーデが4人にみられた。抗不整脈薬治療群では1年後に26人（43%）がアブレーションを受けた。生活の質（QOL）は両群ともに1年後には正常範囲まで改善したが、両群間に有意差はなかった。

以上のように、抗不整脈薬未使用の症候性発作性心房細動患者に対するアブレーションは、抗不整脈薬に比べて、2年間での頻拍性不整脈の再発率を有意に抑制した。しかしながら、どちらの治療法によっても再発率は高い。

出典：Journal of American Medical Association. 2014; 311(7): 692-700